

エジプト新王国時代における野鳥狩りと漁の場面の 変遷

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2951

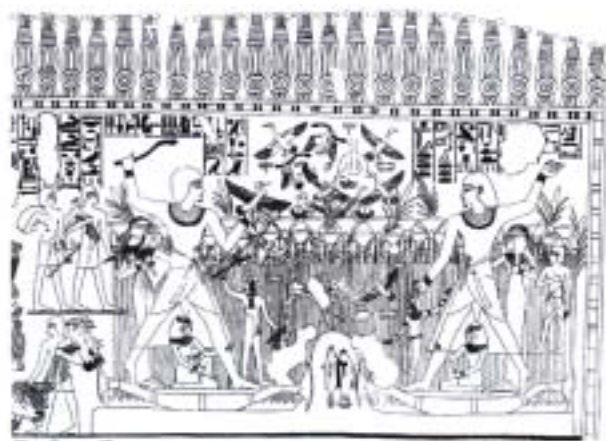
「エジプト新王国時代における野鳥狩りと漁の場面の変遷」

村田 木綿子

野鳥狩りと漁の場面は、墓壁画においてひとつにまとめられ、左右対称的に墓主が二重に描かれたものである。本稿では、野鳥狩りと漁の場面について場面の配置、描かれた場所、漁の場面に描かれる「水の山」の高さ、人物の持ち物の分析により、この場面の変遷について考察を行った。

現在のルクソール西岸に位置する、ネクロポリス・テーベにおける墓壁画について分析を行い傾向を調べた。場面の配置は野鳥狩りと漁の2場面における左右の配置によって、FV型、VF型、VF(特殊)型に、描かれた場所は前室と奥室の壁面6ヶ所に分類した。その結果、時期により傾向が異なり、変化が見られた。また、「水の山」の高さは上がり下がりを経験しており、さらに、人物によって持ち物の傾向やポーズが異なることがわかった。

分析の結果、王の治世によって場面の配置と描かれた場所に傾向があり、墓主と他の人物達のポーズ、持ち物は様式化されていることが明らかとなった。しかし、本稿では分析対象がテーベのみであったので、第18王朝における変遷の考察となってしまった。分析の対象を広げることで、より詳細に考察を行なうことができると思われる。



52 号墓